

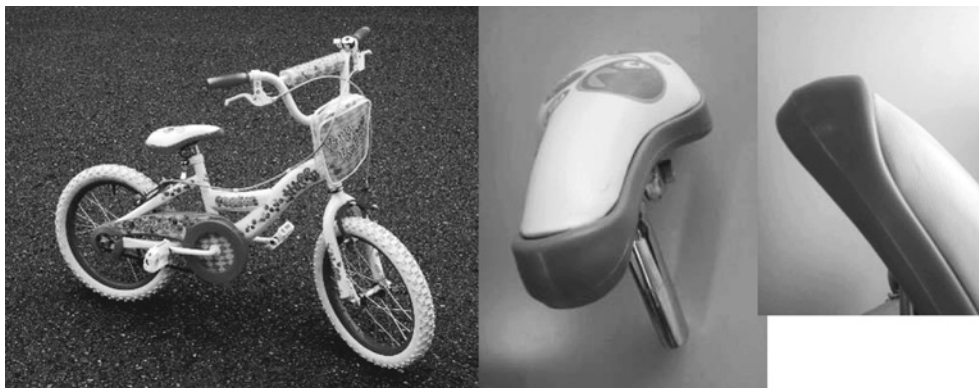
Injury Alert (傷害注意速報)

No. 15 自転車のサドルによる外陰部外傷

事 例	年齢：5歳9カ月 性別：女 身長：106cm	
傷害の種類	外陰部裂傷	
原因対象物	自転車のサドル	
臨床診断名	外陰部の裂傷，皮下出血	
発生状況	発生場所	自宅外
	周囲の人・状況	母親，妹と3人で，それぞれ自転車に乗って外出
	発生時刻	9月17日
	発生時の詳しい様子と経過	母と4歳の妹と本児の3人で，自転車に乗って16時から1時間程度の外出をした。先頭に補助輪なしの自転車の本児，補助輪付き自転車の妹が続き，後ろから母が続いた。妹は補助輪付きの自転車を使用していて遅いので，途中何度も停車して妹を待つことはあったが，段差に落ちたり何かに衝突したという明確な受傷機転はなかった。帰宅時は普段通り元気にしていたが，帰宅直後のトイレでの排尿後に股間が少し痛いと本人が訴えた。すぐに入浴させて自分で洗わせ，入浴後に母が局所を確認したところ，外見上は大きな変化はみられず，わずかに出血を認めるのみであった。本人が「痛い」と嫌がるため，その時点では出血点を確認できなかった。その後，兄はそのままソファで横になって寝てしまい，22時ころに家族が寝室に運ぼうとしたところ着衣が多量の血液で濡れていることに気づき，驚いて救急車で来院した。その時点では，局所は紫色に腫脹して痛みの訴えも増強していた。自転車は量販店で購入した外国製のものであった。本児が乗ると，足が地面に少ししかつかないもので，危ないかもしれないと母親は感じていた。以前も，自転車に乗った後に股間が痛いと言えることがあった。サドル(写真)は周囲が硬質のプラスチックで覆われ，サドルの前方側面は座面クッションより少し隆起していた。サドルを一番下げた状態で，外陰部が当たる部分の地面からの高さは55cmであった。前傾姿勢で騎乗したとき，外陰部に強い局所的な圧迫が起こりうる構造であった。
治療経過と予後	外陰部(右の小陰唇と大陰唇のあいだ)に2cmの裂傷があり，動脈性の出血が認められた。入院して，全身麻酔下で縫合処置を施行した。ICUへの入室2日を含め計3日間の入院管理と外来での経過観察をおこなった。後遺障害は認められなかった。	

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. 会陰部には神経や血管が密に分布しており，この部分に一定時間以上の強い圧迫が加わると症状がみられることになる。
2. サドルの圧迫による症状として，成人男性では勃起障害，成人女性では知覚鈍麻やしびれ感が知られている。また，強い外力による傷害は「サドル外傷」として知られている。
3. 本事例が使用した自転車は，サドルの外縁が硬いプラスチック製であること，また外陰部の前面が当たるサドルの部分が隆起しており，傷害が起こりやすい構造であった。
4. サドルは一番低い高さで固定されており，自転車が停車しているときは両足先が地面につく状態であった。ハンドルを強く握って前傾姿勢になると，外陰部に大きな力がかかったと思われる。サドルの高さは，足の裏全体が地面につく状態で固定する必要がある。保護者は，子どもの成長を考えて大きめの製品を購入する機会が多いが，使用する子どもの体格に合わせたサイズの自転車を選ぶ必要がある。同じサイズとして表示されていても，外国製の自転車では少し大きい場合がある。自転車メーカー，販売店は，消費者に対して，子ども用自転車の選び方について適切な啓発を行う必要がある。
5. サドルのプラスチックと恥骨のあいだで圧迫されて外陰皮下の血管が切れ，それが動脈であったために多量の出血となった。サドルの材質としてプラスチックは不適切であり，サドルの前後方向の角度は地面に対して平行であることが望ましい。また，サドル前部の左右方向の幅が狭いことも強い力がかかった要因の一つであろう。



傷害が発生した自転車とサドル（右の2枚）
